

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

富 永 悦 子

○神奈川県湯河原町

パークPFIを活用した万葉公園の再整備について

【所 見】

湯河原温泉の温泉場地区は、万葉集にも謳われた湯河原温泉発祥の地であり、江戸時代から現代に至るまで湯治場、温泉保養地、温泉観光地として栄えた歴史と伝統を誇る湯河原温泉という地域素材を有していることが素晴らしいところだと思う。これまで大規模開発・乱開発を免れ、静謐な大人の癒し場として、落ち着いた温泉場の情緒を今に引き継いで、その素材を活用し、「面」としての魅力づくりを通して、歩いて楽しい温泉場をつくるための様々なまちづくり事業を町主導、官民連携、民間主導と役割を分担してそれぞれが良いところを引き出しながら実現した事業である。地元地域住民と話し合いを続け、理解を得て、共に歩んで行った事が成功のカギと考える。そこには、ピーク時より、観光客数43%、宿泊者数51%減少したことの危機感が背景にあった。

町の衰退をとめ「知の温泉場」として美術館を再生し、雇用の確保として、町づくりのコンセプトを伝え協力できる人材を募集。10人が町に移住した。滞在時間の延長を目指し、万葉公園の整備を惣湯テラス、鳥テラス、段テラス、岩テラス、川テラス、蛍テラス等それぞれのポイントに特徴を持たせたことは興味深い。

結果として、客層が変わり、以前は、シニアが宿泊して美味しいものを食べる場所から、若者が自然環境に触れながら、散策し、日帰り温泉を楽しみ、普段の喧騒から解放され、体を休める場所となり、東京、横浜から1時間という立地の湯河原温泉が人々から選ばれる場所となった。魅力度調査も1,000町村中122位から53位へと上昇した。インターネット調査のため、若者にアピール出来たということだと思う。なお、予算は、地方創生社会整備費等国の予算を整備費として活用している、とのことである。

本市においても渡良瀬橋の本町緑地におけるpark - PFI事業として、整備を目指している。今回の視察では、施設整備、民間事業者の募集の手法や国の補助金の活用等、大いに参考になった。